

阿武隈川流域水道水源特定保全地域の指定について

1. 水道水源特定保全地域とは

「ふるさと宮城の水循環保全条例」(平成17年1月1日施行)第13条第1項に基づき、山間部の水道水源となる地域のうち特に重要と認められる区域を水道水源特定保全地域として指定。

地域内の開発行為に対し届出を義務付け、必要に応じて適切な指導を行うことで良好な水循環の保全を図る。

「ふるさと宮城の水循環保全条例」(抜粋)

宮城県条例第四十二号

(水道水源特定保全地域)

第十三条 知事は、前条の流域水循環計画に基づいて、山間部の水道水源地域のうち、その地域の良好な水環境の保全を図る上で特に重要と認められる区域を水道水源特定保全地域として指定することができる。

2 知事は、水道水源特定保全地域の指定をしようとするときは、あらかじめ、関係する国有林野の管理者、河川管理者及び関係市町村並びに宮城県環境審議会の意見を聴かなければならない。

2. 指定された場合の効果

- 開発行為に対し届出を義務付け、適切な指導を行うことで良好な水循環の保全を図る。
- 届出に伴い水環境影響報告書の縦覧(15日間)を実施。住民等は意見書を提出できる。
⇒ 意見書の提出があった場合、住民説明会の開催を求めることができる。
- 水環境影響報告書(水環境に特化したアセス)の作成が必要なため、開発行為に対し抑止効果が期待できる。

(1) 届出を要する行為

- ・ 1,000 m²以上の行為(伐採, 工作物の新築・改築・増築, 土地の形質変更など)

(2) 届出を要しない行為

- ・ 1,000 m²未満の行為
- ・ 通常の維持管理行為
- ・ 国又は地方公共団体が行う行為
- ・ 農業・林業・漁業を営むための行為
- ・ 自己の住宅の新築・改築・増築・撤去
- ・ 法令に基づく許可・認可・届出を要する行為

法令(抜粋)	許可・認可・届出
森林法	林地開発行為許可 など
自然公園法・条例	特別地域内行為許可 など
環境影響評価法・条例	アセス対象事業
地すべり等防止法	地すべり防止区域内行為許可 など
急傾斜地の崩壊による災害の防止に関する法律	急傾斜地崩壊危険区域内行為許可 など
砂防指定地等管理条例	砂防指定地内行為許可 など

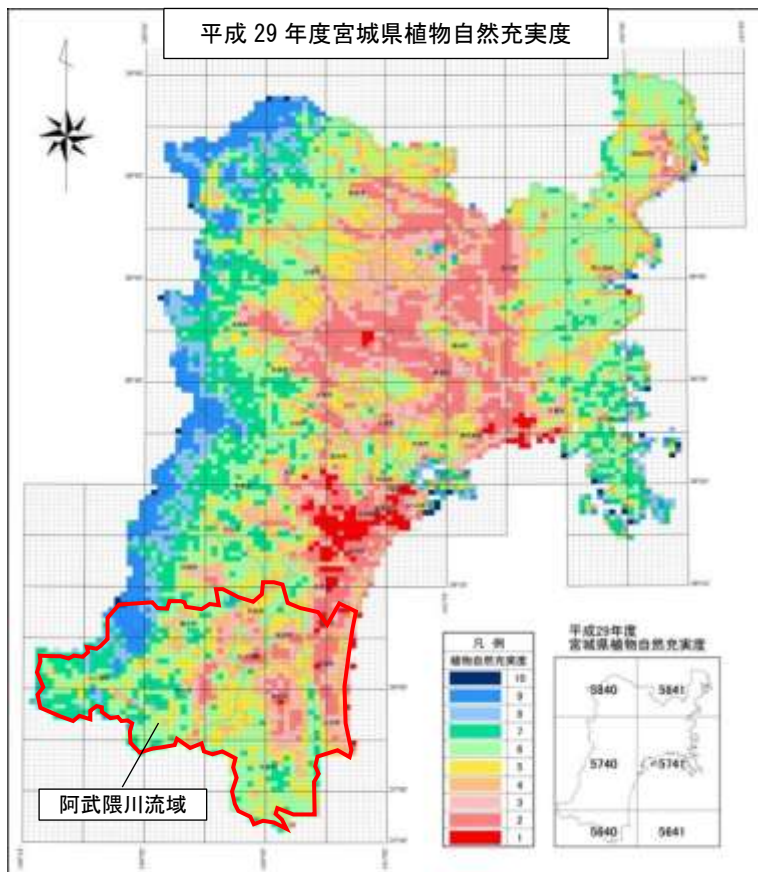
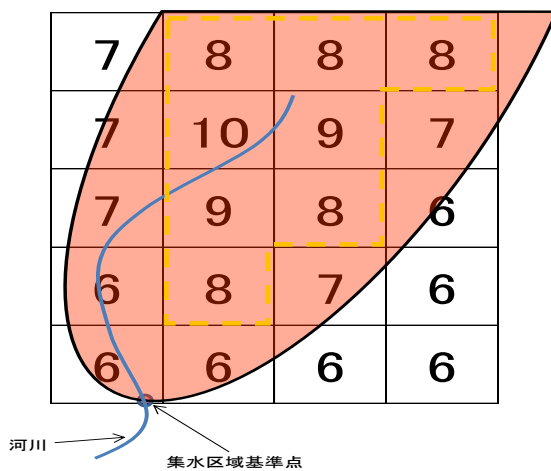
3. 区域指定の考え方

県内を1kmメッシュ毎に10段階に区分した「植物自然充実度」を基に、水源涵養機能が高い天然林、もしくはそれに近い森林（指標8～10相当）を含むメッシュを集水区域に沿ってスムージングした区域を指定

今回の指定地域

平成11年度からの環境省調査(1/2.5万植生図)を基に宮城県が平成29年度に作成した植物自然充実度現況図を反映

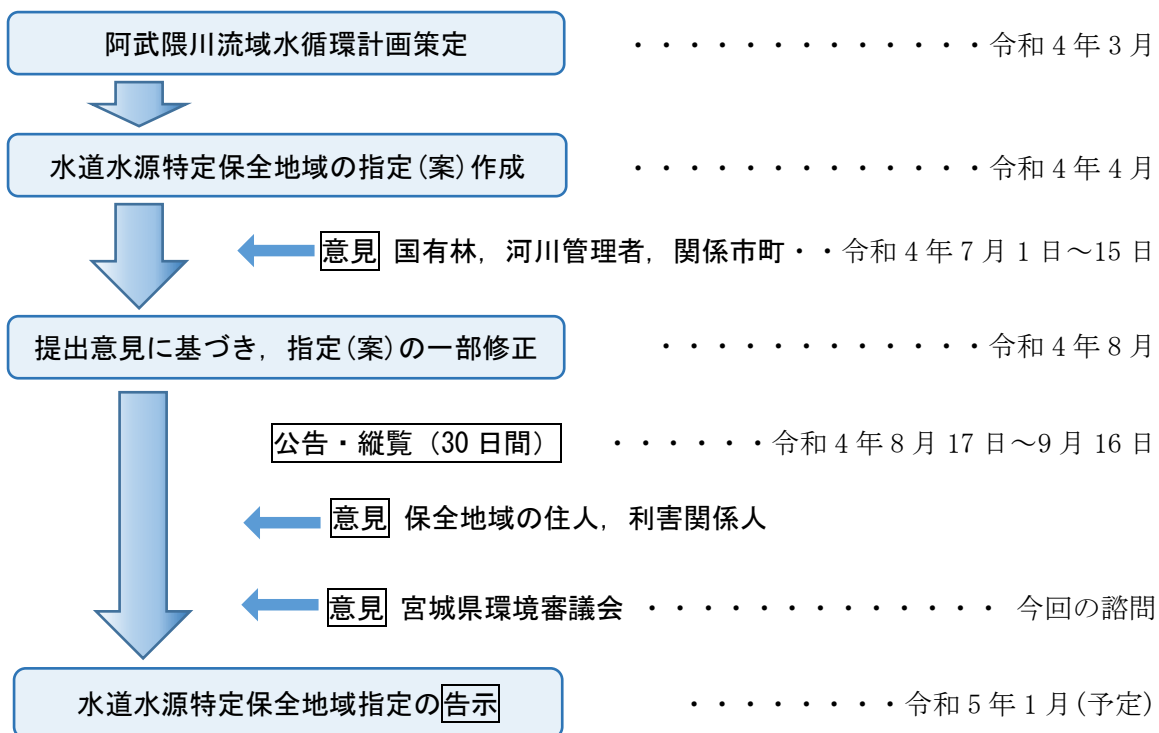
※令和2～3年度に変更指定した鳴瀬川・北上川・名取川流域の植物自然充実度調査と同じデータで検討することにより県全域の整合性を確保



【植物自然充実度指標】

- 10：沿岸地帯から高山帯までの県土全域にみられる自然植生で、特殊な厳しい環境に成立する群落（雪田植物群落、自然湖沼に生育する水生植物群落など）
- 9：沿岸地帯から高山帯までの県土全域にみられる自然植生で、その地域の極相に相当する植生（ハイマツ低木林、アオモリトドマツ林、ブナ林など）
- 8：沿岸地帯から高山帯までの県土全域にみられる自然植生が破壊された跡に成立した植生で、比較的人為の影響が少なく組成が自然植生に類似する植生（タブノキ二次林、モミ二次林、イヌブナ二次林、定期的に干されるため池に成立する水生植物群落）
- 7：沿岸地帯、平野地帯、丘陵地帯、山地帯下限などで自然林が繰り返し伐採された跡に成立した林（コナラ・クリ林、ミズナラ二次林、竹林など）
- 6：植林地（スギ、ヒノキ、アカマツ、クロマツ、カラマツなど針葉樹の植林地など）
- 5：半自然植生で草丈の高い草木で構成されている所（ススキ草原、チガヤ草原など）
- 4：かつて人工植生があったところが放棄されて成立した植生で、主に草丈が中位の草木で構成されている所（荒地などに成立するヨモギ群落や伐採跡地群落など）
- 3：植栽された中木で構成されている所、地表には雑草群が見られる（桑畑、落葉果樹園など）
- 2：草丈の短い植物で構成される人工植生を主とした所（水田、野菜畑、牧草畑、ゴルフ場、短茎草本群落など）
- 1：人為的影響の最も強い所（市街地などの屋敷や建物、造成地や自然裸地など）

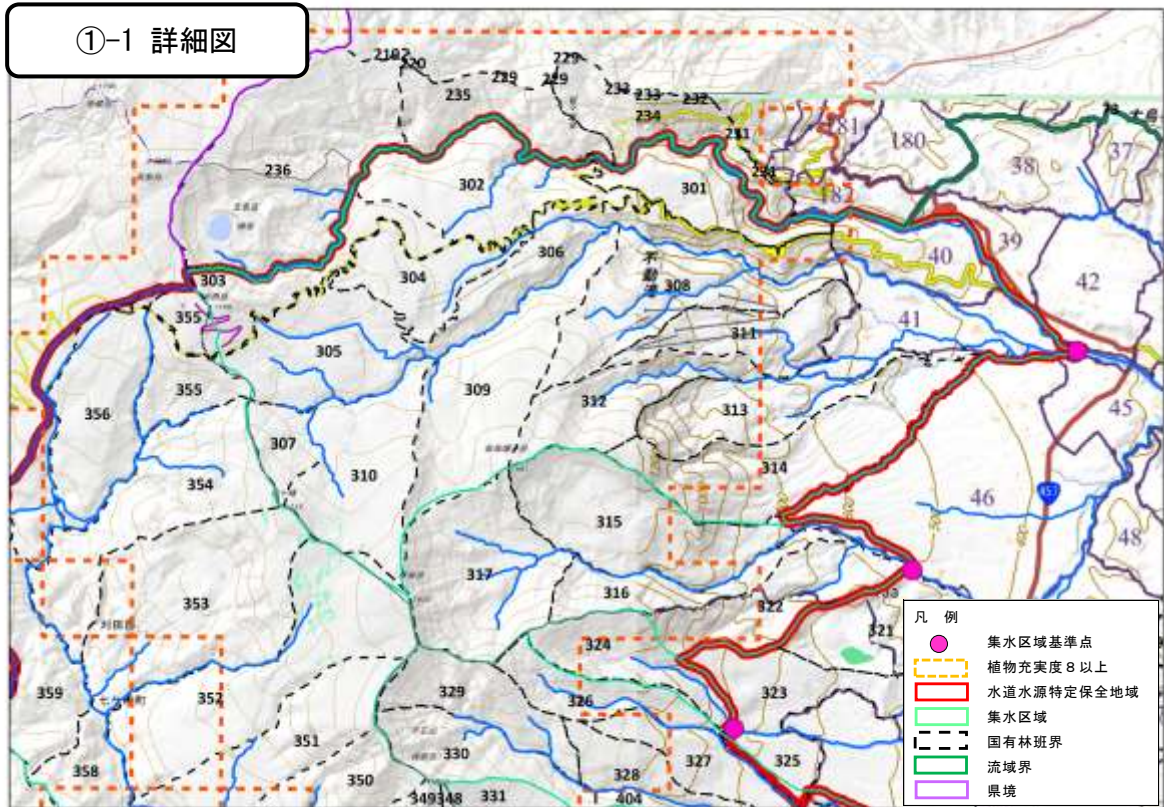
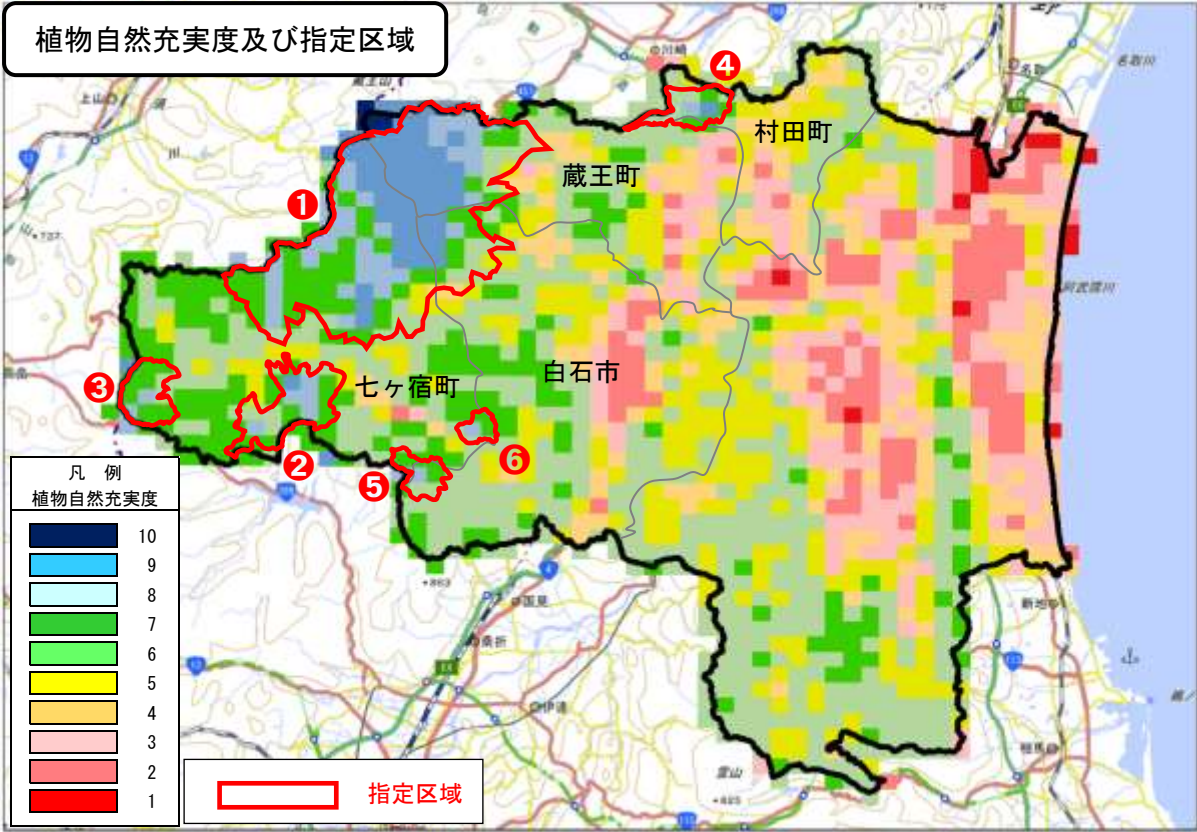
4. 阿武隈川流域水道水源特定保全地域の指定の流れ

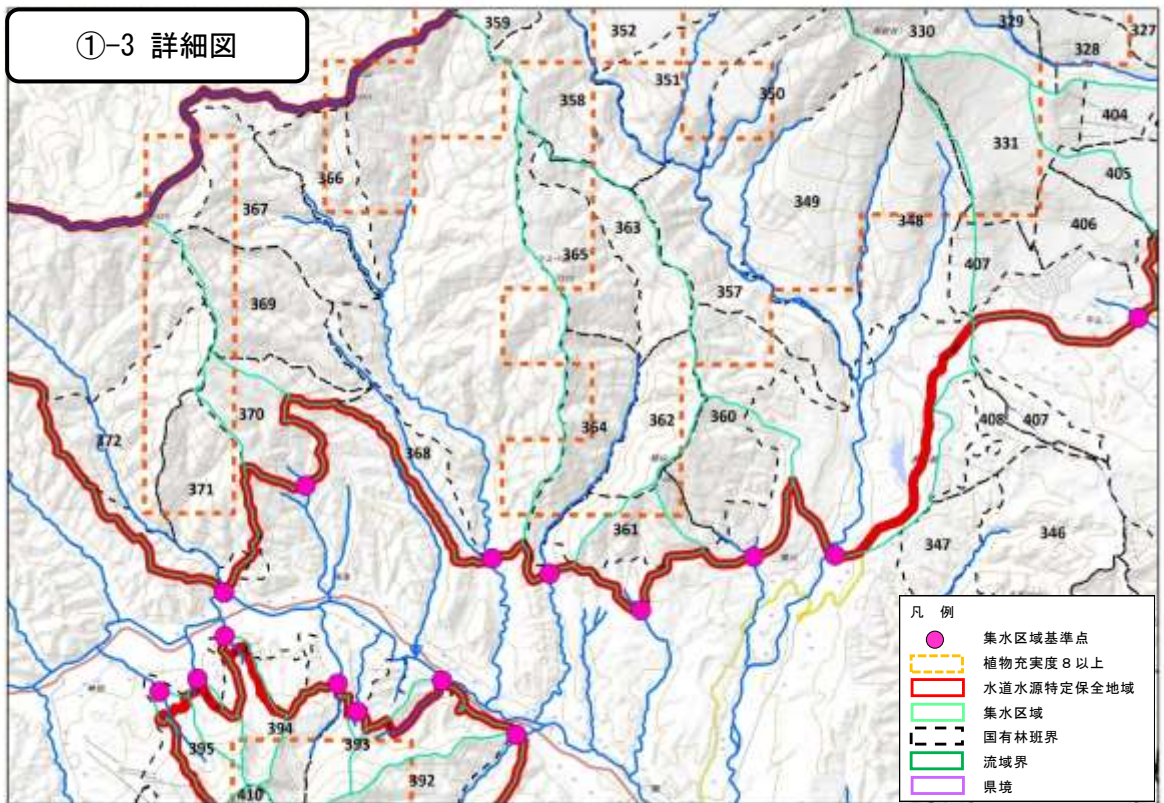
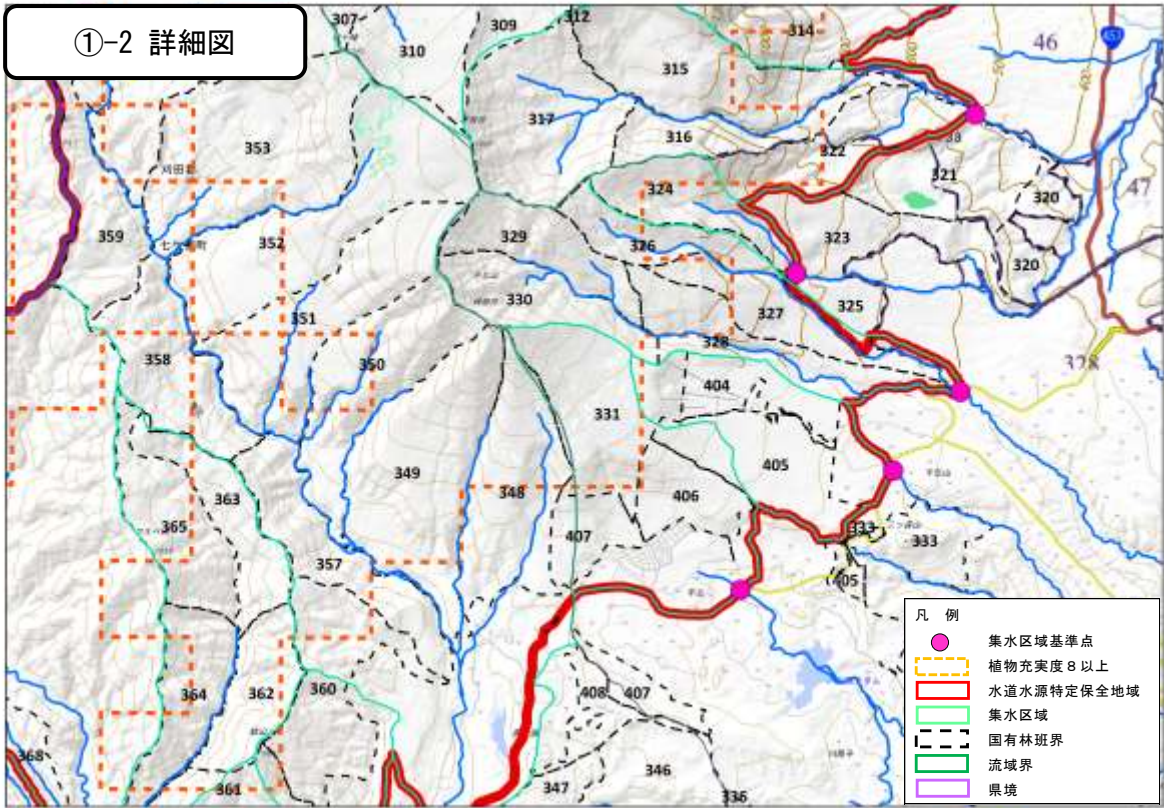


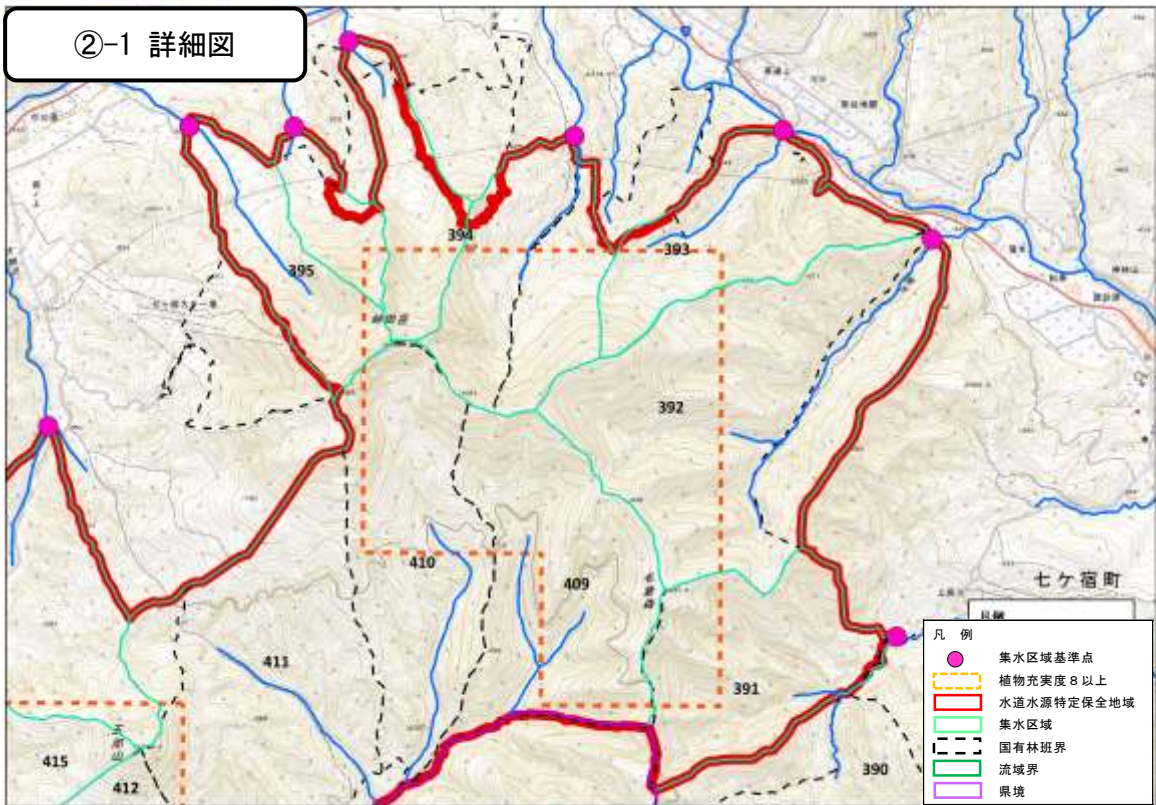
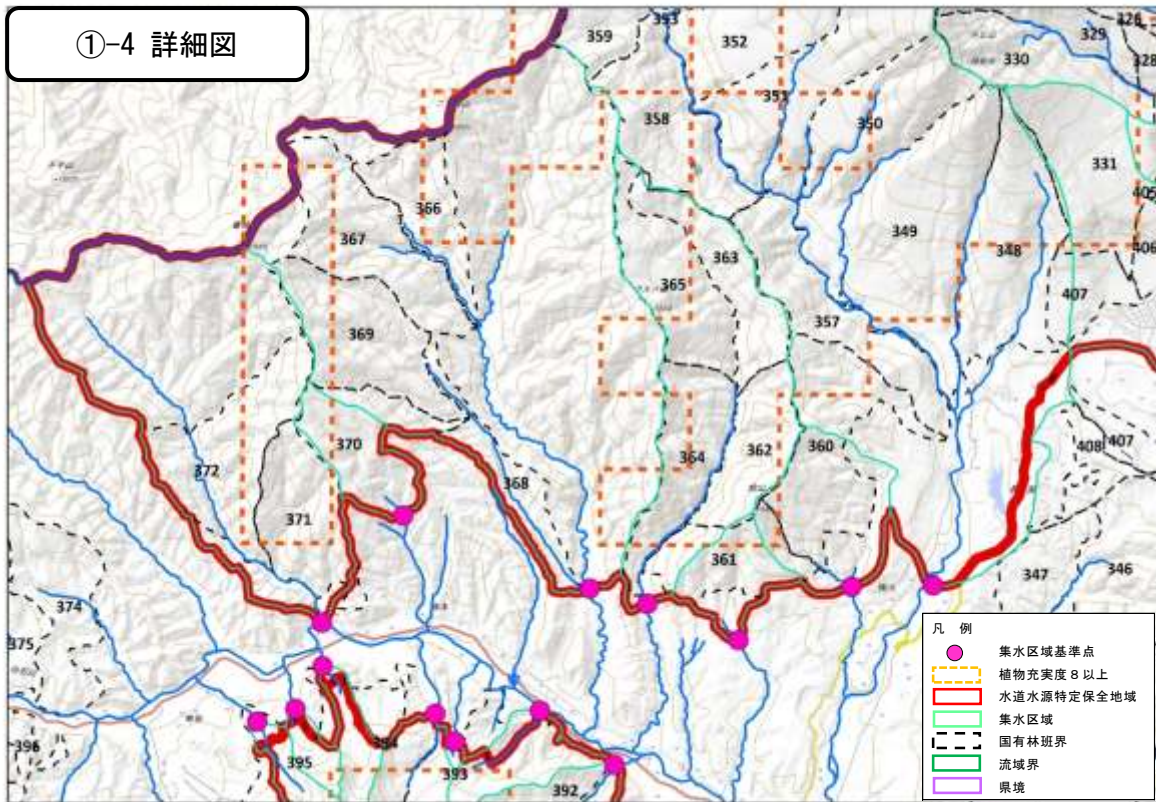
5. 阿武隈川流域の指定区域



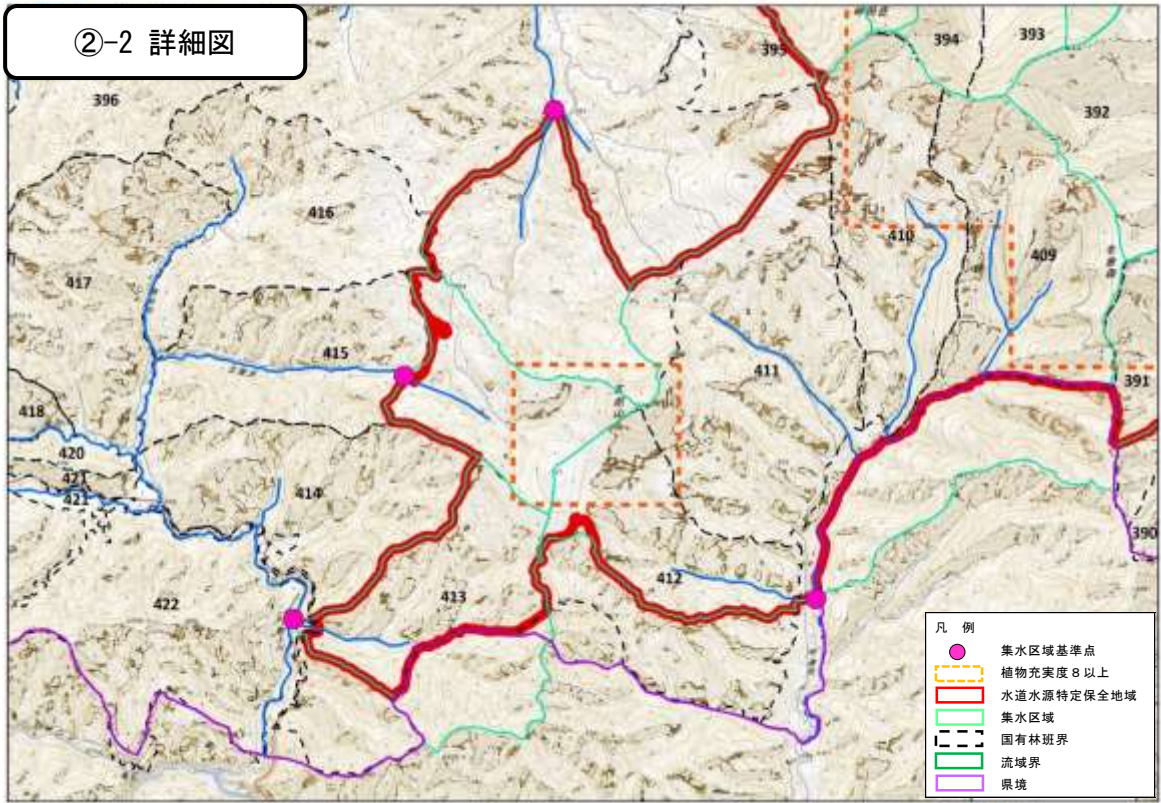
植物自然充実度が8以上の区域を包括する集水区域を、新たに保全地域として指定



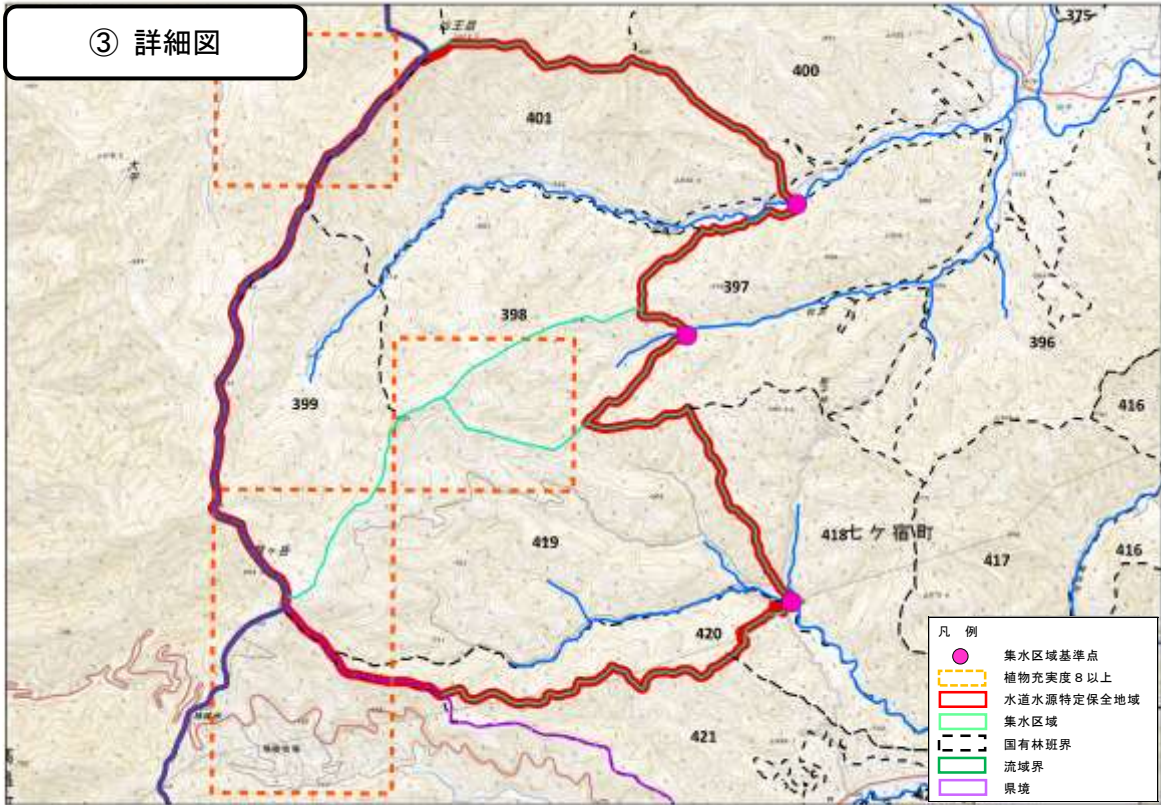


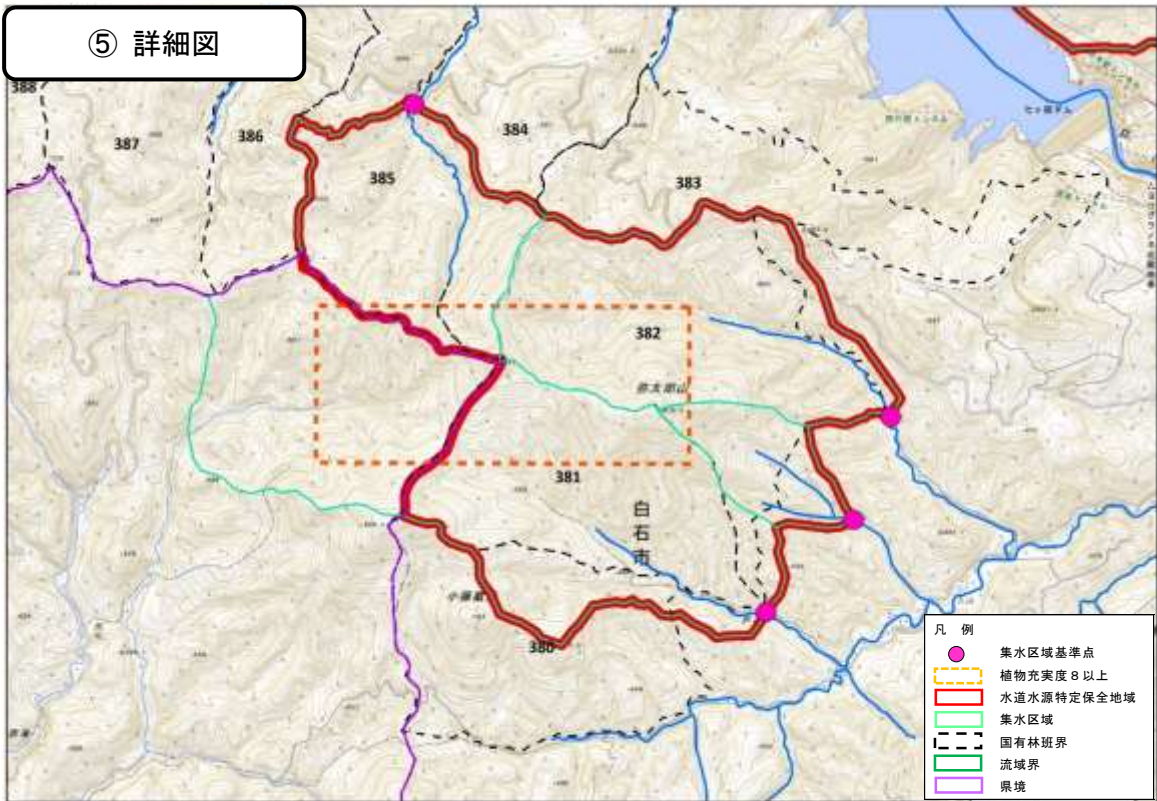


②-2 詳細図

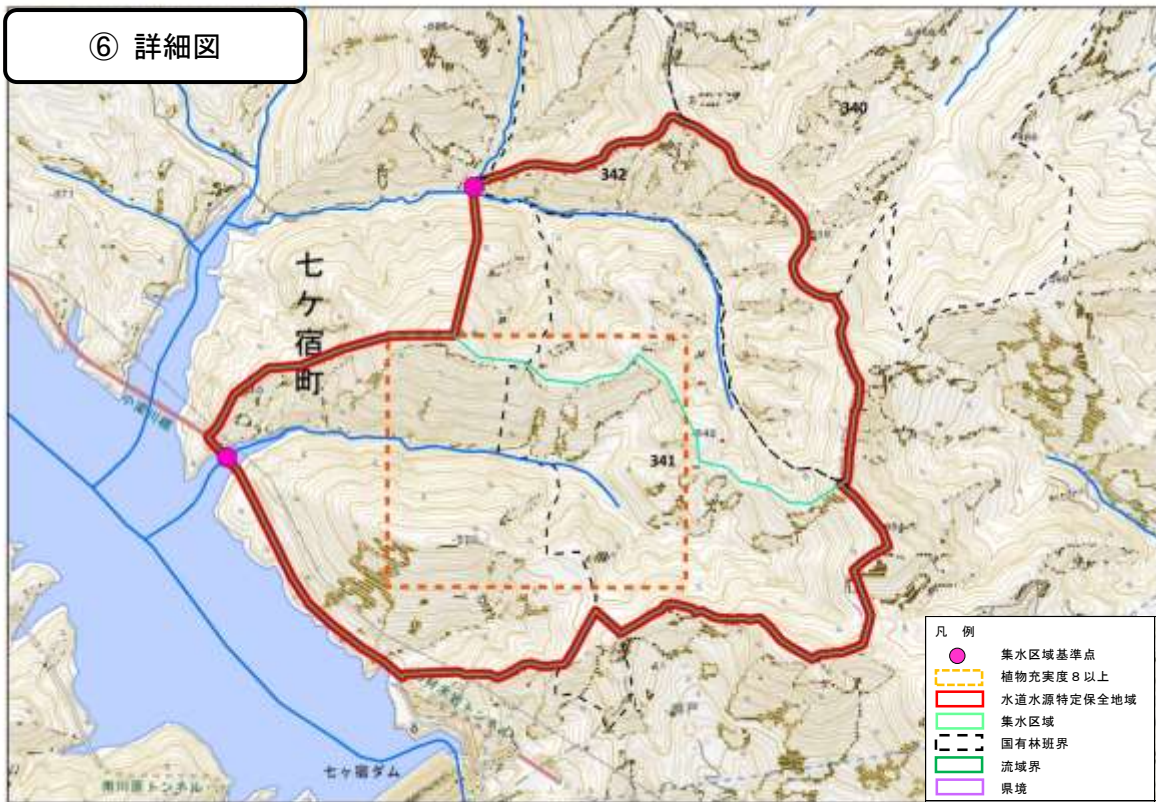


③ 詳細図





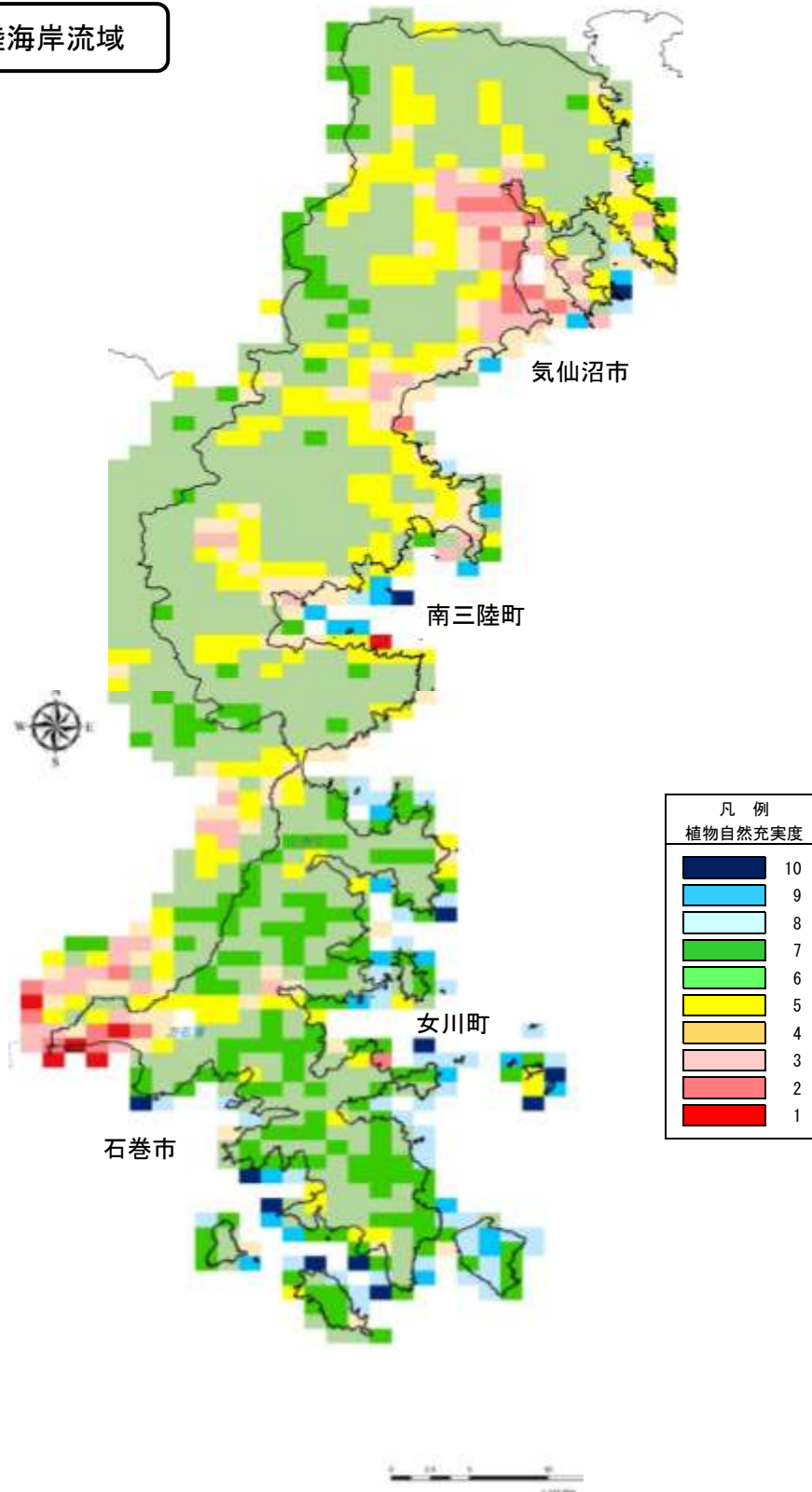
⑥ 詳細図



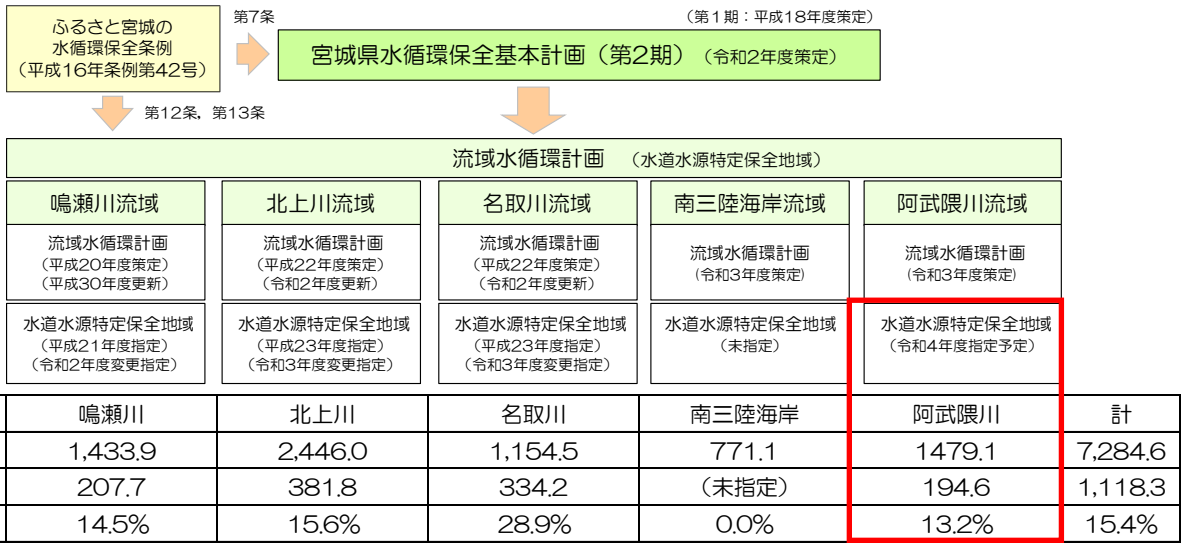
6. 南三陸海岸流域の水道水源特定保全地域の検討

- 植物自然充実度が8以上の箇所は、半島の先端部又は離島のみとなっており、条例で規定する「山間部の水道水源となる地域」には該当しないことから、南三陸海岸流域の水道水源特定保全地域は指定しない。

南三陸海岸流域



7. 指定区域の全体像



阿武隈川流域の水道水源特定保全地域を含め、県土の15.4%を指定